

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	平成29年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成29年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護勤務経験が5年以上の職員がおらず経験が浅い職員が多いが、職員全体で積極的に話し合ったり、お互いをカーバーし合うことで利用者様の安全・安心・穏やかな生活の支援に取り組んでいます。又、食事は専門スタッフを配置し、畑で採れた野菜や果物を食事のメニューに使用したり、利用者様に季節を感じて頂けるよう工夫し心を込めて作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な新興住宅街にあり生活感のある落ち着いた環境のなか、理念に基づき利用者の人権を尊重した介護を行っている。幅広い年齢と経験年数の職員が配置されており、時に若々しい対応、また落ち着いた対応や前職を活かしたコミュニケーション等、個々の利用者の特質や個別性に合ったケアに活かされている。また、管理者は職員とともに現場に身を置き、職員や利用者の状況を把握し、職員からの要望や提案を受け入れ意思疎通を図り、意思決定を行い、利用者の介護援助の質向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継ぎの際にその日の明け勤務と日勤者、キッチンの早番とで当施設の理念を唱和し確認しています。また年に一度当施設の理念について考えてもらうため、職員には理念についての簡単なレポート提出を行っています。	理念はホーム開設時に作成したものであり、毎朝引き継ぎの際に唱和している。理念を具体的なケアに反映させるため、職員全員から理念の実践にかかるレポートを課し、その内容を管理者がまとめて職員にフィードバックし、その浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の課外活動(職場体験学習)等で地域と交流しています。	自治会に加入し、自治会の一員としてその役割(回覧板、挨拶)を果たそうとしている。毎年、近隣中学校の職場体験を受け入れており、介護の仕事の学習を提供している。また、地域の大学からの実習生、ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で民生委員の方に出席して頂き情報交換をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案して頂いた意見を職員会議等で報告し職員全体で共有し、支援に繋げています。	会議には、市の担当者、民生委員、家族が出席している。家族の出席を考慮し、土曜もしくは日曜日に開催している。ホームの取り組み報告や参加者からの情報提供などを共有し、提案を実践化している。例として、家族からの余暇の過ごし方に対する意見(野菜作りや将棋など)を実践に反映させている。	地域と事業所のより密接な関係性が構築出来るよう、運営推進会議に地域住民の代表者である自治会長の参加を促せるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で市の職員の方と情報交換を行っています。	市の担当者とは、事業所ケアマネージャーが中心となり、介護保険、身体障害者手帳の申請に直接赴いたり、各種制度に関する情報交換を行うなどして、その関係性の維持を心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束についての指導を行っています。何故身体拘束をしてはいけないのか、という事を資料等から学びます。	利用者への身体拘束は行っていない。職員は会議の時間を利用し、テーマを設定した学習会を行い、身体拘束をしない介護の在り方について検討している。ホームの基本的な方針として、利用者の意思を尊重し、本人本位で自由に過ごしてもらうことを心がけ、リスクには見守りと個別的な対応で対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待についての指導を行っています。何故虐待をしてはいけないのか、という事を資料等から学びます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいるので、その実際を日々の業務の中で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に説明し疑問点等についてはその都度対処しています。内容の変更等は速やかに書面や、ご家族の来所時に口頭で説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価で次のステップに向けたアドバイスを実践できていない。前回同様。	意見箱を設置してあるがほとんど利用されておらず、意見や要望等は、職員に直接伝えられることが多い。利用者の服装や外出希望、月一回の屋外行事への家族参加等、一つひとつの家族からの意見や要望を、職員間で検討し、可能な限りそれらを実現できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で行っています。又代表者の来所時にも疑問・問題点などについて意見交換をしています。	職員会議、また個々の職員が、直接管理者へ要望や希望を伝えている。管理者は、それらの要望について他の職員、また理事長と相談し、その実現に向けて努力している。具体的な例として、職員の勤務希望、キッチン担当の出勤時間、また車椅子利用者の体重測定のための機器の購入等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修を受けさせケアの力量を向上させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいます。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご本人やご家族からの不安や要望などについて十分に話し合い、日々良いサービスやケアが出来る様に努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているか問題点や要望などを話し合うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の不安や要望に今何が必要なのかを相談しながら見極め、サービスやケアの内容に活かします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など可能な利用者様には手伝って頂き共に日々を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がご本人様のケアを全て行うのではなく、機会があれば食事介助や病院の受診対応などを意図的にそのご家族に行って頂くことでご家族にも共同の支援者であることを感じて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	限られた利用者ではあるがご家族と外出されたり、職員がご本人と共にご本人のご自宅やその周辺にドライブに行っています。	入居したばかりの利用者の要望で、近所の友達による面会、帰宅願望の強い利用者が家の戸締りが心配とのことから、職員とともに自宅訪問、お墓参りを希望している利用者には、その要望への対応等、その人のそれまでの環境を可能な限り継続しようと試みている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢で介護度の高い利用者が多いため、利用者同士の活発なコミュニケーションは多くはないです。しかし、利用者同士が身だしなみ等で助け合う場面も珍しくはないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の転居先へ訪問し様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前回の外部評価で次のステップに向けたアドバイスを実践できていない。前回同様。	入居時に希望や意見を確認し、ホームでの生活を送る上での思いを聴取している。またそのような情報を活用し、本人の意向を考察するためのアセスメントを行っている。加えて友人面会時の様子、日々の生活の中での表情等から要望のサインを見つけるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、ご本人の生活史や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活内容が分かるチェック表があり、水分・食事摂取量、排便、内服などの現状把握が出来るようになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回の外部評価で次のステップに向けたアドバイスを実践できていない。前回同様。	各職員のそれぞれの利用者との関わりの中から見出した気付き等を会議時に情報共有し、介護計画、モニタリングに反映している。そうしたなか、帰宅願望の強い利用者の気を紛らわすために、職員からの意見をもとにプランを立案し、効果的対応について情報共有し、家族、医師にも承諾を得た。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等を活用し、職員全員で情報を共有し見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を踏まえ職員間で話し合い支援の創意工夫に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院と往診契約を結び利用者の健康維持や緊急時対応等に協働しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	幾つかの病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられるよう、支援しています。	利用者は個々のかかりつけ医の受診を継続することもできるが、殆どの利用者が事業所の協力病院の月1回の往診へ切り替えている。歯科、眼科においては、家族からの希望また協力を受け、これまでのかかりつけ医も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月二回の往診時に医師の指示を受けています。変化があった場合、速やかに対応できるよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては、担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取ったり、出向いて情報交換や相談をし、利用者が安心して治療を受けられるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に関し、ご家族との話し合いを行い、意志確認書を作成し署名して頂いています。	事業所では、重度化や終末期における具体的なサービスを行わないことを明確にしている。家族には、入居時に看取りはしない方針であることを説明・同意を得ることとする。医療が必要な場合は改めて話し合いを行い、そのうえで協力病院に依頼している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを提示し、講習や研修などを定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	前回の外部評価で次のステップに向けたアドバイスを実践できていない。前回同様。	年2回の昼夜の場面設定で、防災訓練を消防署参加のもと実施しているが、地域の方の協力は得られていない。また、職員用の緊急連絡網が明確でない。	災害対策において近隣住民の協力が得られるよう働きかけを期待したい。また、職員用の緊急連絡網を整備し明確にすることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った対応や言葉かけを心掛けています。	利用者への言葉かけは、その方のプライドを傷つけないように心かけている。例えば、排便コントロールをしている方に対しては、他の利用者がお昼寝中であつたり、声かけをしているところを他の人に気づかれないようにしたり(耳元で話す)等工夫と配慮を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援・介助させて頂く際は常にご本人に確認しています。言葉が出ない方へは表情などを注意深く見たり、思いを探るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・食堂・ホールでいつでも自分のいたい場所でくつろげるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろんですが、美容師による出張カット・整髪などを依頼しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの摂取しやすい状態で、季節の旬の食材を使った食事を職員と一緒に楽しく頂いています。行事食などもあります。	食事は職員も一緒にとり、利用者の摂取状態や表情の観察を行い、かつ会話を提供しながら食事の時間を提供している。事業所内に畑があり、果物や野菜はそれら旬のものを取り入れている。キッチン担当職員と職員に管理栄養士がおり、利用者の希望とともに栄養バランスを考えたメニューを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み食、ミキサー食、お粥など利用者一人ひとりに合わせた形状で摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の起床時と毎食後に口腔ケアをして頂いています。夜間は義歯をお預かりして洗浄剤にて消毒していますが、希望されない方の物は洗浄後にお返ししています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に合わせた排泄誘導、介助をしています。	夜間はおむつを使用しているが、昼間は声かけをし、トイレに誘導する、入院した際、おむつを使用することとなった利用者に対し、声かけと誘導にてトイレでの排泄へと戻すなど、個々の状況に応じ、排泄の自立に向けた働きかけを行っている。適切な排泄支援が、ADL(日常生活動作)の拡大に繋がると考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトと牛乳を利用者に摂取して頂くことで便秘の予防・対策を行っている。なるべく整腸剤等を使わず自然排便を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本午前中としているが、その日の利用者の状態や希望に合わせ随時行っています。夜間は難しい。	入浴は、週2～3回実施している。回数については、個々利用者の希望には可能な限り応えるようにしているが、夜間の入浴希望への対応は、人員配置の問題からその実践は難しい。利用者の希望で、介助者(男性か女性)を決めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも休息が取れるようにしています。気持ちよく寝られるよう環境にも気配りしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりが使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし、症状の変化などに注意を払い内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを手伝ってもらったり、散歩に出たり、レクリエーションで運動や歌を歌ったりして気分転換をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、花見や果物狩りに出かけています。時にはご家族と出かけたりしています。	月1回の行事は、その時々季節を感じられるものを企画するように心がけている。また、外出や外食など、個々の利用者の家族からの要望、その実践を大切にしている。日々の散歩等は、利用者の希望に寄り添い援助している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお預かりしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご本人から要望があれば対応します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節に沿ったカレンダーを作り、年間行事も取り入れています。	共用空間は、清掃が行き渡っており清潔感がある。壁には、手作りカレンダーや行事写真が貼られている。食堂とリビングが別になっており、レクリエーションはリビングで行っている。食堂は光は入り、明るい雰囲気である。騒音もなく、静かな空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでTVを観たり、食堂のテーブルでパズルや将棋などを自由に出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族に使い慣れた物を持って来て頂くようお願いしています。	自宅から持ってくるものに制限はなく(危険なものは不可)、利用者の希望でカセットラジオやソファ等慣れ親しんだ家具が、部屋に配置されている。また、利用者の意志に応じて、写真等が壁に貼られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレなど分かりやすく大きな字の標識を使っています。家具などの配置も考え、利用者が移動しやすいよう安全に気を付けています。		